

1. 教育の責任

国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護の実践力を有する人材育成の一翼を担っています。

2. 教育の理念

新しい命を育み家族を形成していく周産期にある母と児の身体的・心理的・社会的特性をふまえ、そのウェルネスの維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を教授する。

女性とその家族に関わる看護援助を、エビデンスに基づいて教授する。

教育活動の全過程を通じて学生を尊重し、エンパワーする。

3. 教育の方法

【4年間を通じた教育】

1年～2年次「キャリアプランニングⅠ・Ⅱ」では、リーダーとして看護の特徴や魅力が伝わる授業構成を検討し運営しています。

2年次からの「母性健康看護学概論」「グローバル社会とウイメンズヘルス」では、人間のセクシュアリティの生理的、社会的、国際的な特徴を教授し、3年次の「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護実践技術を教授したうえで、実習で実際の対象への展開ができるよう、教授／学習活動を積み重ねています。

学習の積み重ねに困難を生じる学生には、2年次からオフィスアワーを活用してチュートリアルを実施し、個別対応をしています。毎年、この制度を20人程度の学生が利用しています。制度を利用しない学生に対しても、この制度があることを知ってもらうことで、質問や相談がしやすい空気を醸成しています。

他に「医療関係法規」の科目責任者として、看護および母子に関する法律の教授を担当しているほか、「看護研究Ⅱ」では科目責任者として全体の学習状況を把握し、看護学部内の専門各領域の教授内容の統合が図れるようにしています。卒業論文指導は年間を通じて行い、インタビューや量的調査、文献レビューなど様々な研究方法をとる学生の研究指導に当たり、全員が卒業論文を作成しています。

【講義・演習・実習のつながり】

講義では、単元に応じた最新の政府統計や国際機関刊行物、学術論文から引用した資料を活用し、学生の知的好奇心を喚起しつつ、母性看護学の最新動向を踏まえています。演習では、周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）のウェルネスに焦点をあてた看護実践能力を、教示と繰り返しの練習などを通じて学べるようにしています。

英語教材は政府資料及びオリジナルの資料を併用し、母性看護を必要とする多様な対象者に“やさしい日本語”と英語を併用したコミュニケーションへの動機づけを行っています。2023年度はタイ・CMUの学生と本学部生との合同演習を英語で実施し（沐浴、災害時の母子保健）、両学生の交流を踏まえた自発的学習を促すことができました。

実習と連動している演習では、適時に必要な技術演習やカンファレンスによる振り返りを行っています。

【母性看護学領域以外の教育】

学部長として、全学生への丁寧でタイムリーな対応や学部方針の的確な判断に努め、それにより学部全体の教育力が最大化するように活動しています。また、2023年度は国際看護学領域の国際看護学実習Ⅲ（韓国）に帯同し、国際看護学部の教育の特徴に貢献する方法を模索できました。

4. 教育の成果

個別指導の成果として、講義終了時の中間・定期テストは平均70点以上となっています。学生アンケート結果は平均を上回っており、学習満足度は総じて高いと受け止めています。加えて、学生の意見に基づいて課題の内容を変更するなど、学習効果を高めるようにしています。講義・演習内での学生の発表は活発です。実習指導者合同協議会などを通じ、実習指導者からの評価も良好な状況です。

5. 改善への努力と今後の目標

4年次学生の国家試験模擬試験では、母性看護学領域を苦手とする学生が多い傾向があり、4年生対象の国家試験対策講座での教材や教授法を工夫し、好評でした。

英語での演習は、MOUからの受け入れ事業の時期を考慮し、9月または2月の学内演習として今後も取り入れるよう計画していく。授業アンケートの回答率が4割程度までにとどまっており、授業中に入力してもらえるように十分な時間を確保していく。

【添付資料】

TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を簡条書きで列挙します。

- ① シラバス「母性健康看護学概論」「多様性とウィメンズヘルス」「母性看護援助論Ⅰ」「母性看護援助論Ⅱ」「母性看護学実習」「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」
- ② 開発教材（「多様性とウィメンズ」「母性看護援助論Ⅱ」授業資料抜粋）
- ③ 学生アンケート（2023年度春学期）
- ②のみ下記に一部掲載

